

『人文』3号 訂正表

頁	行	誤	正
91	16	中島建蔵	中島健蔵
145	37	高全	高埜
175	1	はンガリー	ハンガリー

## ジプシー語研究のために

下 宮 忠 雄

### 名称

流浪の民として知られるジプシー (Gypsy) の総人口は 700~800 万と推定される。その半分はヨーロッパに住み、さらにその三分の二が東ヨーロッパに集中している。かつてのユダヤ人と同様、今日に至るまで祖国をもたぬ彼らは、起源的にはインド・アーリア系の民族である。紀元 1000 年ごろ、インド西北部から移動を始め、アルメニア、トルコ、ギリシア、ルーマニア、ハンガリーその他の諸国に入り込んだ。ジプシーという名称は、英国人がエジプト起源 (Egyptian) と考えたためである。ドイツ語で Zigeuner (ツィゴイナー)、フランス語で tsigane (ツィガーヌ)、スペイン語で gitano (ヒターノ)、ロシア語で cygan (ツィガン) と呼ぶが、ジプシー自身は自分のことをロム (Rom) という。これは「人間、人」の意味で、ヒンディー語の dom に対応する。そこで、最近ではジプシー語のことをロマニー語 (Romany, Romani) ということが多い。ジプシー語は、系統的にはインド語である。pal (pen pal) はジプシー語 phral (兄弟) に由来し、サンスクリット語の bhrātā (英語 brother と同系) にあたる。

### ジプシーの三種族

(1) カルデラシュ (Kalderas) はバルカン半島、南欧諸国のジプシーを指す。ルーマニア語 cǎldăraș 「鍋・釜の職人」からきており、いかけ屋を職業としている者が多い。彼らは唯一の純粋なジプシーであると主張している。

(2) ヒターノ (Gitano)。スペイン、ポルトガル、北アフリカ、南フランスのジプシー。彼らの言語は非常にスペイン語化しているが、アラビア語もたくさん含む。語源は egiptano (エジプトの) で、彼らがエジプトから来たと考えたためである。

(3) マヌシュ (Manusch) またはシンティー (Sinti)。ドイツ、オーストリア、フランス、イタリアのジプシーを指す。マヌシュはサンスクリット語で「人間」の意味。

北西インドの故郷から移住を始めたジプシーはまずビザンチン帝国 (ギリシア) および他のバルカン諸国に、ドイツ、スイス、イタリア、フランス、スペインには 15 世紀に、英国には 16 世紀に現れた。文学作品としては、セルバンテスの La gitanilla (ヒタニーリャ、ジ

ブシーの少女、1612)、プーシキンの *Cygane* (ツィガーニエ、流浪の民、1827)、メリメの *Carmen* (カルメン、1845) などに歌われている。

国家をもたないジプシー人には標準語というものがない。したがってその方言は非常に多い。Miklosich の 12 分冊はヨーロッパ・ジプシーの方言と放浪を論じたものであるが、そのうちの VII, VIII は *Vergleichung der Zigeunermundarten* (=Zigeunerisches Wörterbuch) で、799 の見出し語のもとに 13 の方言 griechisch, rumunisch, ungrisch, böhmisch, deutsch, polnisch, russisch, finnisch, skandinavisch, italienisch, baskisch, englisch, spanisch を比較している。

## 起源

ジプシー語がインド起源であることは、基本的な単語を見れば分かる。数詞 1 から 5 まではルーマニア、ギリシア、アルメニア、シリアのジプシー語で並べ、現代インド語・ヒンディー語を最後に掲げる。

ルーマニア	ギリシア	アルメニア	シリア	ヒンディー
1. ek	ek	yaku	yikā	ek
2. dui	dui	dui	dī	do
3. trin	trin	t'rin	tārān	tīn
4. čtar	(i)star	č'tar	štar	cār
5. panč	panč	benč	pūnj	pañc

6 šov, 7 eŋta, 8 oxto, 9 enja, 10 deš, 20 biš (<ai.vimšati) など印欧語的であり、それ以降も印欧語的に十進法である。

サンスクリット語 *asti* “(he, she, it) is” のような基本的な単語が *there is, es gibt* の意味で残り、*masi asti?* (肉はありますか) とか、ヨーロッパでは否定語 *na* とともに *násti* (できない) の形で *násti nakaváv* (私は呑み込めない) のように用いられる (Miklosich VII, 11)。

文明語彙 (Kulturwort) の例として曜日名を掲げる。これはインド起源ではなく、彼らが通った国から取り入れたものである。以下の語形は Boretzky-Igla による。日曜日 *kurkó* はギリキア主の (日) より。ロマンス語 *dimanche, domingo, domenica, duminica* < *dies dominica* と共通。月曜日 *lúja* [<ルーマニア語 *lune* 月の (日)] のほかに *po-nedél-niko* [<セルビア語 *ponedelnik*; ロシア語も同じで *po-nedel-nik* 何もしない (*ne-delo*) 日の次 (*po*) の日 (-*nik*)] があるが、Calvet の辞書にはない。火曜日 *márci* [<ルーマニア *marți* < ラ *Martis*] のほかに *utórniko* [<セルビア *utornik*] があり、この語はロシア語の *vtornik* と同じで、第 2 日の意味。水曜日 *tetrádzi* (*n*) はギリ *tetárti* (第 4 の) + *dzi* (*dies*) で第 4 日目の意味。水曜日 *srédo* はセルビア *sreda* (ロシア語 *sredá*) より。ドイツ語と同じく週の「中日」の意味。木曜日 *čtvrťko* はセルビア語 *četvrtak* で第 4 日。ロシア語も *četverg* で第 4 日。水曜日はギリ

シア式の「第4日」、木曜日はスラヴ式の「第4日」（ポルトガル語は quarta-feira 第4日が水曜日、quinta-feira 第5日が木曜日、sexta-feira 第6日が金曜日）。ジブシー語の木曜日はほかに péfti（ギリシア語 pémpiti 第5日より）と žoj（ルーマニア joi, cf. ラ dies Jovis）がある。金曜日 paraštúj はギリシア語 paraskeví で、原義は安息日のための「準備」。土曜日 sávato はギリシア語 sabbato より。その語源はヘブライ語で「安息日」。

## 研究史

ジブシー語研究の基礎はドイツの August Friedrich Pott (1802-1887) によって築かれた。その *Die Zigeuner in Europa und Asien* (1844-45) の第1巻は名称の起源、研究の歴史、ジブシーの起源、ジブシー語の音論、形態論を扱い、第2巻は語彙（アルファベットがサンスクリット語の順序になっている点が不便）、テキスト、そのドイツ語訳からなっている。第1巻の形態論は代名詞の遠近など印欧語以外の言語も視野に入れ、一般言語学的にも興味深い。その後 Franz Miklosich ミクロシチ (Wien 1872-1880) や Heinrich von Wlislocki ヴリスロツキ (Berlin 1886) による言語・風俗習慣・民話の研究がある。近年も研究が盛んで、Boretzky (1994, 文法)、Boretzky-Igla (1994, 辞書) などがあり、Yaron Matras (1995) のような国際会議も開催されている。

## 音論

近代インド語の一つではあるが、古風な音韻特徴が見られる。サンスクリット語 mr̥ta- (死んだ) がヒンディー語で mua となるのに対して、mulo と語中の r(>l) を保持している。sa trini (3) がヒンディー語で tin となるのに対して、trin と語頭の tr- が保たれている。母音は /ie a o u/ のほかに /ə/ (<ルーマニア語 ä および i)、子音は /b d g dž/ /p t k č/ /ph th kh čh/ /s z š ž/ /f v/ /m n ŋj/ /r ř/ /h x/ がある。/ř/ は zerebrales r ないし r grasséyé と説明され、bar (庭) と bař (石) が区別される。Kosovo と Serbia では g'>dž, k'>ć となる。Assimilation は普遍的な現象だが、ジブシー語の例をあげる: ker (作る)>kerdó (作られた、サ krtá-); e raklěngoro (男の子の、-goro は形容詞を作る接尾辞)>e raklěskoro (男の子たちの)。

## 形態論

ロシア語などと同様、有生物と無生物の対格が異なる。rakló (少年) の対格は raklés だが、無生物 manřó (パン) の対格は主格と同じ。次の例に見るように、単数の格語尾と複数の格語尾が同じであることは、形態法の膠着性を示している。raklés-te (少年のもとに、loc.)、raklén-de (少年たちのもとに)、raklés-ke (少年に、dat.)、raklén-ge (少年たちに)、raklés-tar (少年から、abl.)、raklén-dar (少年たちから)、raklés-(s)a (少年とともに、instr.)、raklén-ca (少年たちとともに)。この点、Pott (I. 152) は単数と複数の格語尾が同じである

ことはハンガリー語もそうだし、近代インド語であるベンガル語やパンジャブ語も同様である、と言っている。代名詞 *me* (私) と *amen* (私たち) についても同じである。

統辞論のうちでは、不定法 (infinitive) の消失をあげる。I want to come のような表現が I want that I come のように表現される。これはバルカン語法として知られ、現代ギリシア語、アルバニア語、ブルガリア語、ルーマニア語と共通している。次は Pott (I, p. 329) が Puchmayer からの例としてあげているものである。kamav te xav (volo ut eam), kames te xas (vis ut eas), kamel te xal (vult ut eat), kamas te xas (volumus ut eamus). kamav (volo), cf. サ kâma (愛)、te “that, daß” < tad “it, that, das”, xav (edo) < ai.khādati “he eats”.

## 語彙

ジプシー語の語彙は約 3000 と考えられる。英国のジプシー語は 1400 (Borrow, Romano Lavo-lil)、Wolf は 3862 語、Demeter は 5300 を掲載している。Boretzky-Igla によると、ジプシー固有語、すなわち、ヨーロッパ進入以前の語彙は 600 語であるという。

## テキスト

以下はジプシーが外国人をどのように見ているかについてのテキストで、Pott (II. 485-487) から採った。Pott はこれを Niebudzen (Preussisch-Lithauen) の牧師 Zippel sen. の遺品から得たとしている (Bd.I, p. xi)。綴字がドイツ語式で読みにくい、そのまま掲げる。

**1. 性格。** O Waldscho hi patuvakró; o Ssasso tschatschopaskero; o Italienaris hi hoino; o Schpaniaris hi avry ssamaskro; o Engellendaris kerla pes ssir baro kòva manusch. (フランス人は礼儀正しい。ドイツ人は正直。イタリア人は行儀がよい。スペイン人は外面が嘲笑的。英国人は自分を偉い人間だと思っている)。Waldscho 「フランス人」 Old English の Wealh (pl. Wēalas) は外国人の意味でブリトン人、ウェールズ人、外国人を表す。古代ノルド語の Valir (m.pl.) は北フランスの住民、ウェールズ人、ケルト人、奴隷を表し、ahd. walah はロマンス語系の人を指す。Pott I, p. 8 に “Welsch heisst bei Deutschen alles was fremd ist” とある。hi “ist” は si (<サ asti) が普通。Ssasso サクソン人とはドイツの主要な民族 (cf. ラ saxum 小刀)。manús “Mensch”

**2. 身体。** O W. hi zigno; o S. hi baro; o I. nan hi baro, nan hi tikno; o Sp. tikno; o E. andry jakk. (フランス人は敏捷、ドイツ人は大きい、イタリア人は大きくも小さくもない、英国人は人目につく、立派だ)。zigno, sigo “hurtig, schnell” <サ śighra-; nan, nane “nicht”

**3. 衣服。** O W. annēla apy nevo tschomone; o S. kerla Waldschos palal; o I. shi tschindo; o Sp. nan hi tschindo; o E. hi buino. (フランス人は新しいものをまとっている、ドイツ人はフランス人を真似る、イタリア人はケチ、スペイン人はケチではない、英国人は豪華)。Waldschos の -s は acc.; palal “von hinten, nach” (kerla palal で “nach-ahnen”); tschindo “knauserig, geizig”

(Liebich)” (Pott II, p. 204 chindo “blind” とあり); buino (hoino のミスプリントか) “prächtigt”

**4. 食事。** O W. kamēla latscho tachall; o S. mekkēla but apy te dschal; o I. na chāla but; o Sp. na dēla but love e chamaske avry; o E. chāla te pjēla but apy. (フランス人は美食、ドイツ人は食事に大いに配慮する、イタリア人はたくさんは食べない、スペイン人は食事にお金をあまり使わない、英国人は大いに飲食する)。tachall=te xal “zu essen, daß er ißt”; te dschal, te džal “zu gehen, daß er geht”; chamaske, dat. of xamásko “eßbar, Vielfraß”

**5. 気質。** O W. hi pèriapaskero; o S. hi rakerpaskero; o I. shi kerepaskero — kērla, sso wawer kamēla; o Sp. kerla pester but; o E. na rikkerla jek dsi. (フランス人は冗談好き、ドイツ人は会話好き、イタリア人は世話好き—他人がしようとしていることをする、スペイン人はもったいぶる(自分から多くを作る)、英国人は気が変わる)。pèriapaskero<pherjapé 冗談; rakerpaskero<rakerél 話す、しゃべる; kerepaskero<kerél “machen”; wawer, avér “anderer”<サ apara-; pester “von sich”; rikkerla=rikerél “hält fest, holds”; jek dsi “ein Herz”, cf. サ jīva-“Leben”

**6. 美。** O W. hi schukker; o S. na dēla les tschi pālall; o I. nan hi schukker, nan hi dschungeló; o Sp. hi kutti dschungeló; o E. vēla Engelen paschē. (フランス人は美しい、ドイツ人は彼にひけをとらない、イタリア人は美しくも醜くもない、スペイン人は少し醜い、英国人は天使に近い)。schukker, šukár “schön”; dēla pālall, dél palál “gibt nach”; les “ihn”, leske “ihm”; dschungeló, džungaló “schlecht, abstoßend”; kutti, gutti (Liebich) “wenig”; vēla=avél “kommt”<サ apáyati

**7. 忠告。** O W. hi zigno; o S. troposkero te baredseskro; o I. chórdseskro; o Sp. lēla pes andry jakk; o E. dschala perdal, na dēla pala tschitscheste tschi. (フランス人は早い、ドイツ人は毅然として鋭敏、イタリア人は意味が深い、スペイン人は用心深い、英国人は突き進み、何物に代えても逆戻りしない) lēla=lel “nimmt”<ai.labhate; pes “sich”; jakk, jakh “Auge”; perdal “durch”; dēla pala “gibt zurück”; tschitscheste “bei etwas” (loc. of čiči); tschi, či “nichts”

**8. 学問。** O W. rakerla meschto, tschinnēla fedidir; o S. na dēla les tschi palall; o I., sso tschinēla, ado hi shalauter hoines; o Sp. tshinēla kutti, oder meschto; o E. tschinēla zikkerdo [-es?] . (フランス人は話し上手だが、書くのはもっと上手; ドイツ人は彼にひけをとらない; イタリア人は、書くものはみな立派である; スペイン人は少ししか書かないが、上手に書く; 英国人は博識をもって書く) rakerla=rakerél “redet, spricht”; meschto, mištó “gut”; tschinēla=činél “schneiden, schreiben”(意味変化は write を参照); les “ihm”; tschi, či “nichts”; ado, ada “der” Pott I. 269; shalauter, hallauter “alles”; hoines “anständig, ehrenhaft, vornehm”; oder “aber”(oder の語形確認できず、ドイツ語の混入か); zikkerdo=sikadó “gelehrt, Gelehrter”

**9. 学識。** O W. dschinel [conj.] shaaster kutti; o S. hajohla ssalauter meschto; o I. hi zikkerdó; o Sp., sso jov schinnel, ssasti annēla avry; o E. svietiskro zikkerpaskro. (フランス人はあらゆることについて少しずつ知っている; ドイツ人はあらゆることをよく理解する; イタリア人は博識だ; スペイン人は、知っていることに関しては、それを表現することができる; 英国人は世

界の識者 (= 哲学者) である)。svietiskro zikkerpaskro (Weltweiser) に関しては、アイスランド語でも Philosophie を heimspeki (Weltweisheit) という。

**10. 宗教。** O S. (devlekuno) devlistar [abl.!] traschetùno; o Sp. pazzèla butir, sso [sser?] tschatscho hi. (ドイツ人は神を恐れる、敬虔だ; スペイン人は事実よりも多くを信じる、迷信的だ)。[**11. 事業、12. 奉仕、13. 歌、14. 結婚、15. 女、**はスペースの都合で省略した] devlekuno “göttlich” Pott II, 311; devlistar, abl. of devél “Gott” < ai.devatā “Gottheit” (devil が悪魔の意味になるのはキリスト教以後である); traschetùno, trašutnó “furchtsam” (c. abl.); so, ser=sar... よりも; tschatscho=čačó “wahr” < ai.satya-

### ことわざ

ジプシー語で「ことわざ」は phuro lav という (Prof. Johann Knobloch, Bonn による)。phuro 「古い」 (サンスクリット語 purāṇa-), lav 「ことば」で、全体で「古いことば、昔のことば」の意味である。下記の 1-6 は Ventzel, 7 は Liebich, 8-10 は Pott, 11-12 は Knobloch より。

1. Kon č'urdéla dre túte barésa, č'urdé dre léste marésa. (あなたに石を投げる者には、パンを投げよ) 前半行と後半行が -esa (単数具格語尾) の脚韻を踏んでいる。発音上注意すべきは c [ts], č [tš], ['] は軟音、é, ú などはアクセントを示す。子音の軟音化 (Mouillieung) はロシア語の影響であり、本来のジプシー語にはない。文法については、kon (he who, wer) は印欧語特有の疑問代名詞・関係代名詞の語根 \*kwi-/kwo- を含んでいる。č'urdéla は č'urdáva (投げる) の 3 人称単数、barésa は bar (石、Boretzky-Igla では bař) の単数具格、marésa は maró (パン、Boretzky-Igla では manjó) の単数具格、č'urdé (投げよ) は命令形。「石を投げる」を「石でもって投げる」という言い方はギリシア語 líthois bállein, 古代ノルド語 kasta steini (複数 steinum) と同じだし、ロシア語でも brosát' kámen' (acc.) と並んで kámnem (instr.) ともいう。

2. Barval'ipé lovénca, č'oror'ipé g'ilénca. (富める者はお金で暮らし、貧しい者は歌で暮らす) 前半行と後半行が -énca [エンツァ] の脚韻を踏んでいる。c [ts], č [tš]; barval'pé (富)、č'oror'ipé (貧困) の -ipé は形容詞から抽象名詞を作る接尾辞 (ヒンディー語 -pan)。lovénca は lové (お金) の、g'ilénca は g'il'i (歌) の複数具格。

3. Paši mól pennēna čačepen. (ワインを飲むと人は真実を語る) ギリシア・ローマ時代からの in vino veritas を訳したものと思われる。paši mól “beim Wein” (ワインを飲むと)、mól<サンスクリット語 mādhu; pennēna “they say, sie sagen” (phenáv “dico”); čačepen “truth” < čačo “true” < サンスクリット語 satya-

4. Lavénca o mósto na kerésa. (ことばで橋を建てることはできない) 不言実行。lavénca (ことばで)、mósto (橋) はロシア語 most より。kerésa “du machst” < keráv “ich mache” はサンスクリット語 kr- (作る) より。

5. O šilaló pan'í na xas'krlá god'í. (冷えたスープを飲んでも頭が悪くなることはない) 粗食はむしろ精神を鋭敏にする。pan'í (水) は、ここでは「スープ」。sa pāniya- より。god'í (脳、理性) はsa gōda- より。

6. E b'ida godi b'ianéla. (不幸は知性を呼び覚ます) 哲学的な考察である。b'ida (悲しみ、不幸) はロシア語 *beda* より。b'ianéla (知性) はsa \*vi-janati より。

7. I tarni romni har i rosa. I puri romni har i džamba. (若い女はバラのようだ、年老いた女はヒキガエルのような) tarno (若い) はサンスクリット語 *taruṇa-* より。romni (女、妻) はrom (男、夫、ジプシー) の女性形。i は女性定冠詞。

8. O svietto hi, sir e treppe; o jek džala apry, o waver džala tehelé. (世界は階段のようなものだ。登る人もあれば、降りる人もある) ヨーロッパの種々の言語にある。榮枯盛衰は世の習い。競争の世界である。svietto (世界) はスラヴ語 *svet* より。hi “(er, sie) ist”; sir=sar, har (cf.7); e treppe (階段、梯子) はドイツ語より。e は女性定冠詞 (ドイツ語も女性名詞)。o jek “der eine”; waver=aver “der andere”; džala “er geht” < sa yāti; apry=avri “außen, draußen, hinaus” (外に行く、活躍する); tehelé=telé “unten”

9. Patuvalé lāva kērela but, te mollevēna kutti. (丁寧な言葉は無料なのに、多くのことを可能にする) patuvalo (礼儀正しい); lāva=alāv (言葉) の複数; but “viel, much” < sa bahu-; te “und, daß”; mollevēna “sie kosten”, kutti “wenig”

10. Matte manuša te tikkene čave pennēna o čačepen. (酔っぱらいと小さな子供は本当のことを言う) 3. の「ワインの中に真理あり」と同じ。mato (酔った) < sa matta-, čavo (少年、息子、子供) < sa sāva-

11. Pen či glan o gadžende, te pene o čačepen rakre romanes. (白人の前では何も言うな、真実を言うときはジプシー語で言え) 迫害されてきたジプシーたちの警戒心を語っている。pen 命令形「言え」< phenáv “sagen, sprechen”; glan 「…の前で」; gadžende< gadž-en-de (複数 locative)、gadžo 「白人、農夫、家の人」< sa grha- 「家」; te “wenn”; rakre=rakker “sprich!” (Pott, II.268); romanes は副詞「ロマニー語で、ジプシー語で」

12. Sintenge jak džala putegar vri. (ジプシーの火は決して消えない) この「火」は「精神、血」の意味。ジプシー族は滅びない、の意味。sinto (複数 sinti) は中部ヨーロッパやドイツのジプシーを指す。sint-en-ge は複数与格。jak=jag 「火」< sa agni-; džala „geht”; putegar “niemals”; vri “aus, heraus”

原語が不明だが、「魚には水が、鳥には森が、ジプシーには女と歌が必要だ」「一番むずかしい芸術は盗む術だ」「悪魔は退屈すると二人の女を喧嘩させる」「乙女のときはバラ、妻になるとイバラ」「片手が片手を洗い、両手が顔を洗う」(ラテン語 *manus manum lavat* 片手が片手を洗う、助け合いの精神) などがある (Bonsack, Wedeck などより)。



## なぞなぞ

なぞなぞのことをジプシー語で *zumaviená* (ズマヴィエナー) という。語源は *zumáv* (試みる) である。なぞなぞには比喩的なもの (空を野原にたとえる)、擬人的なもの (風車の翼を追っかけっこする婦人にたとえる)、記述的なもの (タマゴを白と黄の液体とする) があるが、ジプシーのなぞなぞは野外生活に関する素朴なものが多い。その中には放浪の途上、ヨーロッパの各地から取り入れたものや模倣したものも多く、原始的な印欧語民族の文学に新しい光を投ずるようなものは少ない (R. Petsch)。しかし牧場を天体にたとえる第1番目のものは、明らかに古代アーリア人の思想を表している (J. Sampson)。以下 1-5 は英国ウェールズ地方 (J. Sampson)、6-15 と 16-17 アナグラム 2 個はバルカン諸国 (R. Durić) のものである。Sampson の表記は複雑なので、Durić の表記法に変えた。Sampson は努力して 50 個を採集したと思われるが、ウェールズ・ジプシーのことわざには面白いものが少ない。

1. *Kon džala ande i krališaki komora ta kekende pučela?* (誰の許可も得ずに女王さまのお部屋に入り込む人はだあれ) 答: お日さま (o kham). *kon* “who?”; *džala* “goes”; *ande* “in, into”; *krališaki* 女王の; *komóra* 部屋; *ta* “and”; *kekende* 誰からも < *kek* “someone, any one”; *pučela* “asks”; *kham* 太陽 < *sa gharma* “Hitze”

2. *So džala opre porno ta avela tele melano?* (上がるときは白なのに下るときは黄色になるものなあに) 答: タマゴ (o joro). *so* “who, wer?” < *sa kasya* “whose, wessen”; *porno, parno* “white” < *sa pāṇḍu*; *avela* “kommt” < *sa āpayāti*; *tele* “unten, down” < *sa tala* “Grund, Boden”; *melano* “gelb, yellow”; *joro* “egg, Ei” (通常 *anŕo* < *sa āṇḍa* を用いる)

3. *So barol šeresas tele, prnenca opre?* (頭を下に、足を上にして成長するものなあに) 答: タマネギ (e purum). *šeressa* (instr. of *šeró* “Kopf, head”) < *sa širas*; *prnenca* (instr. pl. of *prnó* “foot”) < *sa piṇḍa*; *purúm* “Zwiebel, onion” (Boretzky-Igla に ohne Etymologie とあり)

4. *Štar parne ronias prastenas pala vaverkendi ta kekar tilde vaverken.* (4 人の白い婦人が追いかけてっこしているが、お互いに誰も捕まらないものなあに) 答: 風車 (e bavi-akero). *štar* “four” < *sa catvāra*; *parne* f. pl. of *parnó, pornó* “white”; *ronia, ranjá* pl. of *raní* “Dame, Herrin”; *prastenas* 3. sg. pres. of *prástel* “laufen”; *pála* “hinter, nach”; *vaverkendi* (*pala-v-aver-kendi*) “after one another”; *kekar* “never”; *tilde* “catch up, overtake, einholen”; *baviakero* “windmill” 原義 wind-maker (bavja “wind”)

5. *So džala pala vordon a ni mol khančese?* (馬車のあとから旅をするが、誰にも何の役にも立たないものはなあに) 答: 騒音 (i godli). *pala* “hinter, nach”; *vordon* “Wagen” cf. オセツト語 *ordon*, 中世ペルシア語 *wardyūn*; *a* “aber, und”, セルビア語より、ロシア語も同様; *ni* “nicht”, スラヴ語一般に “auch nicht”; *mol* “kostet, ist wert”; *khančese, khančeske*, dat. of *khanči* “nichts”; *godli* “noise” この語は Boretzky-Igla, Demeter, Gjerdman-Ljungberg, Calvet の辞書になく、Pott

II, 133 に godly “Schreien”, godli, goodly “Geschrei”, goddi “Geräusch” とあり。Wolf (1987) にも godli あり。i godli “the noise”, e purum “the onion” など、女性定冠詞に i と e が同じテキストの中に現れる。

6. So si gadava: ni pijelpe, ni xalpe, bi lako našti? (飲むことも食べることもできないが、それなしには生きられないものなあと) 答: 空気 (e xava)。gadavá “dieser, this”; pijelpe, xalpe は pijel “trinken”, xal “essen” の動名詞 (-pe); bi “ohne, without”; lako, lake は oj “sie, she” (3人称女性単数) の dat.; našti “kann nicht, cannot” < sa nāsti < na asti “ist nicht”; xava, hava “Luft, air”

7. Mamil tut, ni dičhes las, našti te astares las. (君を愛撫してくれるが、それを見ることはできないし、つかむこともできないものはなあと) 答: 風 (e balval)。mamil “caresses” < mamí “grandmother”; tut “dich, thee”; dičhes, dikhes, 2.sg.pres. of dikhél “see, sehen” < sa drś-, drk-; las, la, acc.sg. of oj “sie, she”; astares, 2.sg. of astarél “ergreifen, grab”; balval “wind”, reduplication < sa vāta-

8. So si gadava; džikaj xal, savorhe dičhen, katar načhel, savorhe džanen? (食べている間は、誰でも見ることができる。そしてそれがどこに去って行くかを、誰でも知っているものはなあと) 答: 火事 (e jag)。džikaj “solange, während, while”; xal “essen” < sa khādati; savorhe, savorre “alle, all people” < sa sarva-; dičhen, dikhen, 3.pl.pres. of dikhél “see, sehen”; katar “woher, from where”, cf. sa kathā “wie?”; načhel, nakhél “geht vorbei, geht hinüber” < sa nakṣati “sich nähern”?; džanen, 3.pl.pres. of džanél “wissen, kennen, know” < sa jānāti; jag “Feuer, Flamme, fire” < sa agni-

9. Mulo, kalo an jag dživdol. (死んで黒くなっているが、火が生き返らせてくれるものはなあと) 答: 石炭 (o angar)。mulo “tot, dead” < sa mṛta-; kalo “schwarz, black” < sa kāla-; an “in”; dživol, dživdol “wird lebendig, comes to life” < sa jīvati; angar “Kohle, coal”

10. Milaja me šudraorijav, ivende tatarav. (私は夏には人を涼しくし、冬には人を暖めてあげます。私は誰でしょう) 答: 木 (o ruk)。milaja “in summer” < milaj “summer”; me “ich, I”; šudraorijav “I make cool” < šudró “cool”; ivende “in winter”, ivend “winter” < sa hemanta-; tatarav “ich erwärme” < tató “warm” < sa tapta-; ruk “Baum, tree” < sa vṛkṣa-

11. Jek dad šel čhave ande sosten garavel. (一人の父が百人の息子を下着の下に隠している。この人だあれ) 答: トウモロコシ (o bobo)。jek “ein, one” < sa eka-; dad “father” (小児語); šel “hundred” < sa śata-; čhave, pl. of čhavó “boy, son” < パーリ語 chāpa-; ande “in, within”; sosten “trousers, drawers” < sa svasthāna-; garavel “hide, verstecken” < sa gadd-; bobo “Mais, maize”

12. Šoro pe jek prno an livadjin ačhel. (一本足の上に頭をのせて野原に立っているものはなあと) 答: キノコ (e xuxuni)。šoro, šeró “Kopf, head”; prno “foot” < sa piṇḍa-; livadjin, livadžín 草原、牧場 < gi livádi; ačhel “bleibt, remains”; xuxuni, xuxúr “Pilz, mushroom”

13. Bi prnengo džal, bi dandengo xal. (足がないのに歩き、歯がないのに食べるものはなあと) 答: 蛇 (o sap)。bi “ohne, without” < sa vi- 否定; prnengo < prn-en-go, gen.pl. of prnó (前

置詞 bi は属格支配); dandengo < dand-en-go, gen.pl. of dand “tooth” < サ danta-; xal “cats” < サ khādati; sap 蛇 < サ sarpa-, 原義: 這う者、ラ serpens

14. Pusavel tut pe karneja, pravarel tut pe khuleja. (針で君を突き刺すが、その糞が君の栄養になるものはなかに) 答: ミツバチ (e birovli)。pusavel 刺す < サ spršati; karneja, pl. of karnó, kanřó とげ; pravarel, parvarél “ernährt, füttert, feeds”; khuleja, pl. of khul “Kot, excrement”; birovli “Biene, bee”

15. Andar e phuv avel, ande jag del thaj manušese trajo anel. (大地から出て来て、火の中に入り、人間に生命を与えるものはなかに) 答: パン (o marno)。andar “from” < サ antarāt (abl.) “heraus von, von innen”; phuv 大地 < サ bhūmi-; avel “kommt, comes” < サ āpáyati; del “gibt, gives” < サ dádāti; thaj “und” < サ tathāpi “so, in der Weise”?; manušese, manušeske, dat. of manuš “Mensch”; trajo “Leben, life”; anel “bringt” < サ ānáyati “herführen”; marno, manřo, maro “bread” < サ maṇḍa- おかゆ

16. Alon don manušen. Džanes saven? (この文から二人の人を選んで一人にしろ。だれだれか分かりますか) 答: London (ロンドン)。alon, imperative of alonsarél “choose”; don, oblique cases of duj “two”; manušen, acc.pl. of manuš “Mensch”; džanes “du weißt, kennst”; saven, acc.pl. of savo “welcher, which”

17. O xabe o gra dumut xala? (馬はずっと前に食料を食べてしまった。どこの都市の名が隠れているでしょう) 答: Beograd (ベオグラード)。xabe “Nahrung, food”; gra, grast “Pferd, horse” < アルメニア語 grast; dumut “seit langem, long since” < ルーマニア語 demult < dē multō; xala, xalja, pret. of xal “essen, eat”; Beograd はセルビア語で「白い町」の意味で、ケルト語起源の Vindo-bona (Wien) と同じ。

## 〈文献〉

Bonsack, Wilfried M. (1976): Unter einem Regenbogen bin ich heut gegangen. Sprichworte, Schnurren und Bräuche südeuropäischer Zigeuner. Kassel, Erich Röth-Verlag. 197 p. [ジプシーのことわざ、小話、風俗習慣; 表題は、今日私は虹の下に出かけたの意味。虹は母なる大地が危険の際にジプシーを守るために投げてくれる色彩の美しい帆]

Boretzky, Norbert (1994): Romani. Grammatik des Kalderaš-Dialekts mit Texten und Glossar. Berlin, Harrassowitz Verlag, Wiesbaden. Osteuropa-Institut der Freien Universität Berlin, Balkanologische Veröffentlichungen, Hrsg. von Norbert Reiter, Bd.24. xiv, 299 p. [カルデラシュ方言とはバルカン半島および南欧諸国を指す。kalderaš はルーマニア語で銅細工師、いかけ屋の意味]

Boretzky, Norbert und Birgit Igla (1994): Wörterbuch Romani-Deutsch-Englisch. Mit einer Grammatik der Dialektvarianten. Harrassowitz, Wiesbaden. xxi, 418 p. [語源が記されているの

がありがたい。p. 331-338 に indische Etyma, iranische Etyma, armenische Etyma, griechische Etyma のリストあり]

Borrow, George (1841, 1851, 1857, 1874): *The Zincali, or an account of the Gypsies of Spain, with an original collection of their songs and poetry, and a copious dictionary of their language*, 2 vols. xii, 362 p., 156, 135; *Lavengro, the scholar, the Gypsy the priest*, 3 vols. x, 360p., xi, 366, xi, 426; *The Romany rye, a sequel to Lavengro*, 2 vols. xi, 372 p., vii, 375; *Romano lavo-lil, Word-book of the Romany, or the English Gypsy Language. With many pieces in Gypsy, illustrative of the way of speaking and thinking of the English Gypsies*, viii, 331 p. [以上すべて London, John Murray. 学習院大学英文科所蔵の *The Works of George Borrow in 16 volumes* (ed. by Clement Shorter, London, Constable & Co. 1923) に収められる。lav-engro は word-master, linguist, lavo-lil は word-book, Romany rye は Gypsy gentleman の意味。Borrow は英国のジプシーにこう呼ばれたのである。Romano lavo-lil に I wish to go = camov te jav (I wish that I go), thou wishest to go = caumes te jas (thou wishest that thou goest), they wish to go = caumen te jallan (they wish that they go); I must go = hom te jav (I am that I go, hom = som), they must go = shan te jan (they are that they go) など現代ギリシア語など不定法を失ったバルカン語法の例がある。kam はサンスクリット語 kama 愛、と同根]

Calvet, Georges (1993): *Dictionnaire tsigane-français (dialecte kalderash), avec index français-tsigane*. Paris, L'Asiathèque. 462 p. [3257 語、小型辞書なのに語源がついていて感動もの。用例多し]

Demeter, Roman Stepanovič (1990): *Cygansko-russkij i russko-cyganskij slovar' (Kelderarskij dialekt)*. Moskva, Russkij jazyk. 334 p. [5300 語のジプシー語・ロシア語 p. 21-179, ロシア語・ジプシー語 183-229, ジプシー語・英語 233-281, 男子名・女子名 282-284, 文法 285-306, テキストとそのロシア語訳 307-315, ジプシー事物挿絵 319-333. 衣装、馬車、道具、食器、家など興味深い。語形が統一化されていて使いやすい。語源はない]

Durić (Đurić), Rajko (1980): *Romane garadine alava. Romske zagonetke. (Les énigmes tsiganes. Académie Serbe des Sciences et des Arts, classe de langue et de littérature, littérature orale des Balkans, vol.2)* Beograd. 91 p. [ジプシーのなぞなぞ; ジプシー語とセルビア語の対訳。1982 年 Tokyo にて Prof. Milorad Radovanović (Novi Sad) より受贈]

Gjerdman, Olof and Erik Ljungberg (1963): *The Language of the Swedish Coppersmith Gypsy Johan Dmitri Taikon. Grammar, Texts, Vocabulary and English Word-Index. (Acta Academiae Regiae Gustavi Adolphi, xl) Lundequistska Bokhandeln, Uppsala. xxiii, 455 p.* [Taikon (1879-1950) はジプシー語で Miloš と呼ばれ、カルデラシュ・ジプシーに属する。スウェーデンの Hälsingland 州 Bollnäs に生まれ、ノルウェー、フィンランド、ロシア、バルト諸国、ポーランド、ドイツ、フランスに滞在した。本書は Taikon の言語の詳細な記述で、

- phonology 3-28, word-formation 31-41, inflection and syntax 45-146, texts (8 stories) 149-189, Gypsy-English word-list 193-396, English word index 399-451 からなる。詳しい語源を付す。Taikon のジプシー語彙 3600 のうちルーマニア語起源は 1500、スラヴ語 140 (うちロシア語 40)、ギリシア語 85、ハンガリー語 80~90]
- Kepeski, Krume, i Šaip Jusuf (1980): Romani gramatika, Romska gramatika. Oozi Knigoizdatelstvo "Naša Kniga", Skopje. 220 p. [左頁にロマニー語、右頁にマケドニア語で記したジプシー語文法。2000 語の Romani-Macedonian 語彙あり。3000 部印刷とある。1995 年 Leiden にて Prof.Radovanović (Novi Sad) より受贈]
- Knobloch, Johann, und Inge Sudbrack (hrsg.1977): Zigeuerkundliche Forschungen, I. Innsbruck.
- Liebich, Richard (1863): Die Zigeuner in ihrem Wesen und in ihrer Sprache. Nach eigenen Beobachtungen dargestellt. Wiesbaden, F.A.Brockhaus. x, 272 p. [Reprint Dr. Martin Sändig oHG 1968. mit Zigeunerliteratur von Erich Carlsohn p. 275-283. 語彙は p. 125-168 とわずかだが、現代の辞書にないものがあり、意外に役立つ]
- Matras, Yaron (ed. 1995): Romani in contact. Papers from the 1st international conference on Romani linguistics, Hamburg, May 1993. Amsterdam, John Benjamins (Current Issues in Linguistic Theory, 126) xvii, 205 p.
- Miklosich, Franz (1872-80): Über die Mundarten und Wanderungen der Zigeuner Europa's. I-XII Teile (Denkschriften der Kaiserlichen Akademie der Wissenschaften, phil.-hist. Classe, 21.-31. Bd.) Wien. [I. Die slavischen Elemente in den Mundarten der Zigeuner; II. Beiträge zur Grammatik und zum Lexicon der Zigeunermundarten; III. Die Wanderungen der Zigeuner; IV. Märchen und Lieder der Zigeuner der Bukowina. Erster Theil. Text mit lateinischer Interlinear-Version; V.Märchen und Lieder der Zigeuner der Bukowina. Zweiter Theil. Glossar. VI.Beiträge zur Kenntniss der Mundart in Galizien, in Sirmien und in Serbien. Über den Ursprung des Wortes, Zigeuner'. Armenische Elemente im Zigeunerischen. 筆者が 30 年間探し求めてやっと 2000 年に Jan de Rooy (Kamerik bei Rotterdam) から入手できたのは Theile VII-XII で、その内容は次の通り。VII. Zigeunerisches Wörterbuch, A-K, p. 3-89, VIII. Zigeunerisches Wörterbuch, L-Z, p. 3-110, IX. Phonologie zur Zigeunermundarten, p. 3-51, X. Stammbildungslehre der Zigeunermundarten, p. 1-95, XI. Morphologie der Zigeunermundarten, p. 1-53, XII. Syntax der Zigeunermundarten, p. 3-62, うち Literatur 59-60. 著者ミクロシチ (1813-1891) は Wien 大学スラヴ学教授で、スラヴ語比較文法 4 巻、スラヴ語語源辞典の著書がある]
- Pott, Friedrich August (1844-45): Die Zigeuner in Europa und Asien.Ethnographisch-linguistische Untersuchung, vornehmlich ihrer Herkunft und Sprache. 2 Teile. Halle. Reprint Leipzig 1964. Erster Theil: Einleitung und Grammatik. xvi, 476 p. Zweiter Theil: Einleitung über Gaunersprachen, Wörterbuch und Sprachproben. 540 p. [言語学史に出る著名な印欧言語学者

- によるジプシー語の総括的な研究。師 Franz Bopp, ジプシー語の先達 Lorenz Diefenbach (Gross-Steinheim), Graffunder (Erfurt) に捧げられている。Zigeuner の名称、資料、研究史を詳細に掲げ、語形変化には Puchmayer (Prag 1821), Graffunder (Erfurt 1835) などを比較している。当時の習慣からか、Jacob Grimm の Deutsche Grammatik (1819, 第2版第1巻 1822) などと同様、目次がない。私の所有している第1巻は 1844 年のもので、1980 年、三修社の古書部から入手した。Reprint 1964 には Heinz Mode (Halle) と Johannes Mehlig (Leipzig) の序文が付せられ、Pott が Romanphilologie (ジプシー語研究) に取り組んだのは、ジプシーに対する不当な蔑視と軽蔑をやめるよう警告したかったからだと述べている。Pott は Halle の一般言語学教授で、Wilhelm von Humboldt und die Sprachwissenschaft (1876, 1880<sup>2</sup>) の著者]
- Sampson, John (1911-12): Fifty Welsh-Gypsy Folk-riddles. Journal of the Gypsy Lore Society. New Series, vol.5, no.4, 241-255. ウェールズ地方の 5 個のなぞなぞはここから採った。
- Ventzel, T.V. (1983): The Gypsy Language (North Russian Dialect). Moscow.
- Wedek, H.E. (1973): Dictionary of Gipsy Life and Lore. London, Peter Owen. vi, 518 p. [ジプシーの風俗習慣に関する百科事典。表題は Gipsy だが、本文では Gypsy と綴っている。Gypsy fiction (ジプシーを扱った小説)、Gypsy proverbs, Gypsy riddles など面白い]
- Wolf, Siegmund A. (1987): Großes Wörterbuch der Zigeunersprache (romani tšiw). Wortschatz deutscher und anderer europäischer Zigeunerndialekte. 2. Aufl. Helmut Buske Verlag, Hamburg. 287 pp. [3862 語; Wolf は Pott, Miklosich を生んだ 19 世紀を die große Zeit der Romanphilologie と呼んでいる。巻末に deutsch-zigeunerisch 用の索引あり]

## 日本語文献

- 風間喜代三「ロマーニー語」『言語学大辞典』第4巻、三省堂、1992、p. 1068-70.
- ジュール・ブロック著、木内信敬訳『ジプシー』白水社、文庫クセジュ、1973、第5刷 1979、ii, 153 頁 [著者 (1880-1953) はインド語が専門の言語学者; パリの東洋語学校、コレージュ・ド・フランスの教授]
- 木内信敬『青空と草原の民族、変貌するジプシー』白水社 (白水叢書 51)、1980、241、10 頁 [ジプシーの起源、生活と職業、社会と文化、差別と迫害、新しいジプシー像、世界分布と欧米各国の状況を描く。著者は千葉大学教授、英文学者だが、古くからジプシー問題研究家である]
- 木内信敬『ジプシーの謎を追って』筑摩書房 (ちくまプリマーブックス 32)、1989、200 頁 [カルメン、フラメンコ、流浪の民などの名称で知られる民族ジプシーの起源、文化、風俗、日常生活を中学生にも分かるように平易に紹介した本]
- 平田伊都子『南仏プロヴァンスのジプシー』南雲堂フェニックス、1995、164 頁 [写真・イ

ラスト・川名生十。プロヴァンスといえばワインと観光で有名だが、ここに初めてジプシーが現れたのは1419年、当初から農民はジプシーの安い労働力を利用してきた、とある。著者はここで知り合った Marcel からの誘いで Les amis de Rromani baxt (ジプシー協会の友人たち、baxt はバハトと読む。rr はスペイン語の rr またはフランス語の r grasséyé; Boretzky は ĩ を用いる) の日本支部を作った。著者は『アラビア語の初歩の初歩』『イタリア語の初歩の初歩』『フランス語の初歩の初歩』などの著書がある]

### テキストのための語彙 (224 語)

[略語 ai.=altindisch; arm.=armenisch; gr.=griechisch; idg.=indogermanisch; lat.=lateinisch; pa.=pāli; pr.=prākṛit; rum.=rumänisch; rus.=russisch; sb.=serbisch, serbokroatisch; slav.=slavisch]

**a** しかし、そして。セルビア語より、ロシア語にも同じ用法あり。

**ačhel** “remains” [ai.ākṣeti]

**ado**, ada “der” Pott I. 269.

**alon** imperative of alonsaréI 選ぶ。

**an** “on”.

**andar** “from” [ai.antarāt (abl.) 中から外へ]

**ande** “in, into, within”.

**andry**, andré “in, inside”

**anél**, annēla “brings” [ai.ānáyati]

**angar** 石炭< ai.angāra-.

**apry**, avrí 外へ。

**asavnó**→samaskro.

**astares**, 2.sg.of astaréI つかむ。

**avel**, avela “comes” [ai.āpáyati]

**avry**, avrí 外へ。

**balval** 風、redupl. [ai.vāta-]

**baredseskro** “scharfsinnig”.

**barésa** 石で (instr.).<bar.

**barol**, barjól 大きくなる、成長する<baró.

**baró** 大きい [ai.vadra-]

**baviakero** 風車、原義 wind-maker (bavja 風).

**bi** “without” [ai.vi- 否定接頭辞]

**b'ida** 悲しみ、不幸<rus. bedá.

**birovli** ミツバチ [ai.varata-, varola]

- b'iyanéla** 知性。
- bobo** トウモロコシ [rum. slav. bob]
- buino** (hoino の誤植か) 豪華な。
- but** “much” [ai.bahutva-]
- butir**, butedér “more”.
- čačepen** 事実<čačó.
- čačó** 真実の [ai.satya-]
- čačipé** 真実、事実 [-pe, pen 名詞接尾辞]
- čavo** 少年、息子、子供 [ai.sāva-]
- chāla**, xal “eats” [ai.khādati]
- chamaske**, dat.of xamásko “edible”<xal “eats”.
- čhave**, pl.of čhavó 少年、息子 [čavo と同じ、pa.chāpa-]
- chōrdseskre** “tiefsinnig”<xor 深い<arm.xor 深い。
- či** “not”.
- čomóni** “something”.
- č'urdéla**, čhúdel “throws”.
- dad** 父 (小児語)。
- dandengo**<dand-en-go, gen.pl.of dand 齒 [ai.danta-]
- del** “gives” [ai.dádāti]
- dēla**=del.
- dēla pala** 返す。
- dēla pālall** 譲る、遅れをとる。
- devlekuno** “göttlich” Pott II. 311.
- devlister**, abl.of devél “Gott” [ai.devatā “Gottheit”]
- dičhen**, dikhen, 3.pl.pres.of dikhél 見る。
- dičhes**, dikhes, 2.sg.pres.of dikhél 見る [ai.dṛś-, dṛk-]
- don**, oblique cases of duj “two”.
- dschungeló**, džungaló ひどい、醜い。
- dumut** ずっと前から [rum. demult<lat. dē multō]
- džala** “goes” [ai.yāti]
- džala apry** 外に出る、活躍する。
- džanen**, 3.pl.of džanél “knows” [ai.jānāti]
- džanes** “thou knowest”.
- džikaj** “as long as”. dživol, dživdól 生き返る [ai.jīvati]
- Engelen**, acc.pl.of englo 天使。
- fedidir**, fedér “better” [ai.bhadra + 比較級 -(d)er]



**gadavá** “this”.

**gadžende** < gadž-en-de, loc.pl.of gadžo 白人、農夫、家の人 [ai.gr̥ha- 家]

**garavel** 隠れる、隠す [ai.gadd-]

**g'il'énca**, dat.instr.of g'ilí 歌。

**glan** …の前で。

**god'i** “noise” この語は Boretzky-Igla, Demeter, Gjerdman-Ljungberg, Calvet になく、Pott II.

133 に godly “Schreien”, godli, goodly “Geschrei”, goddi “Geräusch” とあり、Wolf にも godli あり。

**gra**, grast 馬 < arm.grast.

**hajohla** = haljarél “understands”.

**hallauter** すべて (alles)。

**hi** “(he, she, it) is” [si が普通、< ai.asti]

**hoines** fem.pl.of hoino “anständig, ehrenhaft, vornehm”

**hoino** (Pott II. 174) “gut, vortrefflich, tugendhaft, tugendsam, fleissig, heilig”, p. 217 “fromm”.

**i godli** “the noise”.

**ivende** “in winter”, ivend “winter” [ai.hemanta-]

**jag**, jak 火、炎 [ai.agni-]

**jakk**, jakh 目 [ai.akṣi]

**jek** “one” [ai.eka-]

**jek dsi** “ein Herz” [cf.ai. jīva-“life”]

**joro** タマゴ。

**jov** = vov “he”.

**kalo** 黒い [ai.kāla-]

**kamēla**, kamél “wishes, wünscht; likes, liebt” [ai.kāma 愛、願望]

**karneja**, pl.of karnó, kanřó イバラ、とげ。

**katar** “from where” [cf.ai.kathā “how?”]

**kekar** “never”.

**kekende** “from no one”, abl.of kek “some one, any one”.

**kerepaskero** 勤勉なく kerél “does, makes, works”.

**kerésa** “thou makest”, keráv “I make” [ai.kṛ-]

**kerla** “makes, believes”.

**kerla pes** “believes himself (to be)”.

**kham** 太陽 [ai.gharmā-, gr.thermós 熱い]

**khančese**, **khanéske**, dat.of khanči “nothing” [ai.kaścid “some one” と kimcid “something” が混交したものの]

**khuleja**, pl.of khul 糞。

**komóra** 部屋 [＜sb.komora, はンガリー kamara]

**kon** “who, he who, wer” [idg.\*kwi-/\*kwo-]

**kòva, ková** “this, dieser, Füllwort (Boretzky-Igla)”.

**krališaki** 女王の [セルビア kralj 王＜ド Karl]

**kutti, gutti** (Liebich) 少し。

**lako**, lake, dat.of oj “she”.

**las**, la, acc.of oj “she”.

**latscho**, lačhó “gut, schön, passend” [ai.lakṣmī “gutes Zeichen, Glück”]

**lāva**, pl.of alāv (言葉)。

**lavénca** 言葉で。

**lēla**=lel “takes” [ai.labhate]

**les**, acc.”him, ihn” ; dat.”him, ihm”.

**leske**, dat.”him, ihm”.

**livadjin**, livadžin 牧場、草原 [gr.livádi]

**love**, pl.of lovó お金、金貨 [ai.loha-]

**lovénca**, instr.pl.of lové (お金) お金で。

**mamil** 愛撫する＜mamí おばあさん。

**manuš** 人間

**manušen**, acc.pl.of manuš 人間。

**manušese, manušeske**, dat.of manuš.

**marno**, manřo, maro パン [ai.maṇḍa- おかゆ]

**marésa** パンでもって (instr.)。

**mató** 酔った [ai.matta-]

**me** “I, ich”.

**mekkéla**, mukél “lets” …させる。

**melano** 黄色い。

**meschto**, mištó “well, gut”. milaja 夏に＜milaj 夏。

**mol** “it costs, is worthy” [pr.molla 値段]

**möl** ワイン [ai.mádhu]

**mollevēna** “they cost”.

**mósto** 橋 [rus.skr. most]

**mulo** “dead” [ai.mṛta]

**nächel**, nakhél “goes by, goes over”

**nan**, nane “not”.

**naští** “cannot” [ai.nāsti＜na asti “is not”]

**nevo**, nevó 新しい [idg.]

**ni** “not” スラヴ語一般に “auch nicht”.  
**oder** しかし Pott II. 487 (この語は確認できず).  
**ojek** “one of them, der eine”.  
**opre** 上に [ai.upari]  
**pala, pála** 後ろに [ai.pare “später, jenseits”]  
**palal** 後ろから (kerla palal “nachahmen”).  
**pan’i** 水 (ここではスープ) [ai.pāniya-]  
**parne**, f.pl.of parnó, pornó 白い。  
**paschē, pašé** 近くに。  
**paši mōl** “beim Wein” ワインを飲むと。  
**patuvakró, pačiváko** 正直な “ehrlich”.  
**patuvalo**, 礼儀正しい < pačiv 名誉 [arm.pativ 名誉]  
**pazzēla** = pačal “believes”.  
**pe** “on, auf” [ai.upari]  
**pen** 言え、imperative of phenáv “sage, spreche” [ai.bhanati]  
**pennēna** “they say” (phenáv “dico”).  
**perdál** “through”.  
**pèriapaskero** 冗談の < pherjapé 冗談。  
**pes** “sich, oneself” [pr.appa/atta, ai.ātman “Seele, selbst”]  
**pester** “von sich”.  
**phuv** 大地 [ai.bhūmi-]  
**pijelpe**, gerund of pijel 飲む [ai.pā-, pibati]  
**porno, parno** 白い [ai.pāṇḍu-]  
**prastenas**, 3.sg.pres.of prástel 走る [ai. prati-sthāti]  
**pravarel, parvarél** 養う。  
**prnenca**, instr.pl.of prnó 足 [ai.piṇḍa-]  
**prnengo** < prn-en-go, gen.pl.of prnó (前置詞 bi は属格支配)。  
**prno** 足 [ai.piṇḍa-]  
**pučéla** “asks” [ai.pṛcchati]  
**purúm** タマネギ [Boretzky-Igla に ohne Etymologie とあり]  
**pusavel** 刺す [ai.sprśati]  
**putegar** “never”.  
**rakerla, rakerél** “speaks”.  
**rakre, rakker** “sprich!” (Pott II. 268).  
**rikkerla, rikerél** “holds, hält fest”.  
**romanes** (adv.) ロマニー語で、ジプシー語で。

- romni** 女、妻、fem.of rom, ronia, ranjá, pl.of raní 婦人、女主人 [ai.rājñi]
- ruk** 木 [ai.ṛkṣa-]
- samaskro** “lächerlich, höhnisch”, asavnó “komisch, lächerlich”.
- sap** 蛇 [ai.sarpa-, 原義：這う者、lat.serpens, rus.zmejá 地 (zemljá) を這う者]
- saven**, acc.pl.of savo “which, welcher”.
- savorhe**, savorre “alle, all people” [ai.sarva-]
- schinnel** = džanél “knows”.
- schukker**, šukár “schön”.
- šel** 百 [ai.śata-]
- šeresá**, instr.of šeró “head, Kopf” [ai.śiras-]
- sir** “als” (Liebich) …として。
- šilaló** “cooled, gekühlt”.
- sir** = sar, har…のように (wie)。
- shaaster** “all, everything, alles”.
- sha-lauter** “alles”.
- sinto** (pl.sinti) 中部ヨーロッパおよびドイツのジプシー。
- sint-en-ge**, gen.pl.of sinto.
- Ssasso** サクソン人 (ドイツの主要な民族で、ドイツ人を指す) [cf.lat.saxum 小刀]
- ssasti**, sasti “can, kann” [<s-asti?, cf.nasti “cannot”]
- sso**, so, pron.interrog.rel. “who, which” [ai.kasya “whose, wessen”]
- štar** “four” [ai.catvāra-]
- šudraorijav** “I make cool” [šudró “cool”]
- svietiskro** 世界の。
- svietto** 世界 [slav.svet]
- ta** “and”.
- tachall** = te xal “to eat, that he eats”.
- tarno** “young” [ai.taruṇa-]
- tatarav** “I make it warm” [tató “warm”, ai.tapta-]
- te** “and, that, daß”
- te dschal**, te džal “to go, that he goes”.
- tehelé** = telé, tele 下に [ai.tala- 大地]
- thaj** “and” [ai.tathāpi “so, in der Weise”?]
- tiknó** 小さい [ai.tikṣṇa- “scharf, heiß, fein”]
- tilde** 追いつく。
- trajo** 生命、生活 [rum.trai]
- trascetùno**, trašutnó …を恐れる、形容詞 (c.abl.)。

**treppe** 階段、梯子 [ドイツ語より、e treppe の e は女性定冠詞、ドイツ語も女性名詞]  
**troposkero** “standhaft”.  
**tschatscho**, čáčó “wahr” [ai.satya-]  
**tschi**, čī “nothing”  
**tschindo** “knauserig, geizig (Liebich)”.  
**tschinēla**, čhinél “schneiden, schreiben” 「切る」から「書く」への意味変化は write を参照。  
**tschitscheste** “bei etwas” (loc.of čiči).  
**tut** “thee, dich”  
**vaverkendi** (pala-v-aver-kendi) “one after another”.  
**vēla**=avél “comes” [ai.āpáyati]  
**vordon** 車、馬車 [cf.ossetisch ordon, mittelpers.wardyün]  
**vri** 外へ。  
**Waldscho** フランス人 (ドイツ人から見たフランス人、英国人から見たウェールズ人)  
**waver**=aver “the other”.  
**wawer**, avér “other, another” [ai.apara-]  
**xabe** 食料。  
**xal** “eats” [ai.khādati]  
**xala**, xalja, pret.of xal “eat”.  
**xalpe**, gerund of xal “eat” (-pe は動名詞を作る)。  
**xava**, hava 空気 [alb.hava]  
**xuxuni**, xuxúr キノコ。  
**zigno**=sigo 早い、速い [ai.šīgra-]  
**zikkerdo**=sikadó 博識の、学者。  
**zikkerpaskro** 賢者。

## ジプシー語研究のために

下 宮 忠 雄

「ジプシー語研究のために」は F. A. Pott, F. Miklosich, N. Boretzky などに基づいてジプシー語の特徴を述べたものである。ジプシー語を最近はロマニー語ということが多い。近年、International conference on Romani linguistics のような国際的な学会も誕生している。ロム (Rom) はジプシーの自称で、「人間」の意味である。彼らは紀元 1000 年ごろ、インド西北部から移動を始め、ヨーロッパ各地に入り込んだ。その言語は本質的にインド語であるが、放浪の途上で、いろいろな言語から単語や表現を借用した。「考える」(denkawa) のような基本的な単語もドイツ語から借用した。

私自身は、バスク語、コーカサス語などと並んで、ジプシー関係の辞書・参考書を 30 年ほど前から収集してきた。Miklosich (ミークロシチ) の現物をオランダの Jan de Rooy から入手したときは小躍りしたものだ。英文科図書室には長い間お世話になったが、George Borrow 全集は本当にありがたかった。本論はオリジナルな研究とはいえないが、一つの特徴づけ (characterization) のつもりである。

**キーワード**【ジプシー語 ロマニー語 ジプシーの諺となぞなぞ ジプシーの性格】

## **Toward a study of the Gypsy language**

Tadao SHIMOMIYA

This paper gives a synopsis of the Gypsy language based largely on the works by F.A.Pott, F.Miklosich and N.Boretzky. The language, called Romany in linguistics (from rom, the self-designation of the Gypsy), is north-western Indian in origin, but has adopted a large number of words from Greek, Armenian, Rumanian, Serbo-Croatian and Russian. The word pal (pen pal) comes from Gypsy phral "brother" (Sanskrit bhrātā "brother"). The number of speakers is estimated at seven to eight million, half of them in Europe, of whom two-thirds live in East European countries. Among grammatical characteristics is the disappearance of the infinitive and its syntactic device as in Balkan languages. A sample of texts is given together with notes, translation and a glossary.

*Key words:* Gypsy language, Romany, Gypsy proverbs, Gypsy riddles, Gypsy characteristics